

1. 評価結果概要表

平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600293		
法人名	有限会社 ひなた		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	〒061-3202 石狩市花川南2条6丁目118番地 (電話) 0133-74-9646		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (20年12月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年6月10日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 9人 非常勤 1人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000～35,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000 円 暖房費 6,000 円 (10月～5月)		
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 85.7歳	最低 80歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科・ふれあいクリニック・花川病院・ドゥケア歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に運営者が暮らす自宅を改造し開設した「ひなた」は、長年暮らし続け地域と密着した事業所である。町内会を始め地域住民との繋がりも深く、又家族との関係も良好で何でも話し合える信頼関係が築かれている。家族や地域の方々の温かい見守りの中で、職員は「自分らしく生き生きと、共に暮らす」の理念の基に、利用者一人ひとりの思いを尊重し、その人らしい暮らしを支援している。昨年3月よりデイサービスを開設し、更に地域との交流の輪が広がり、利用者にも良い刺激となっている。職員はボランティアの協力の下、レクリエーション活動の幅を広げ、利用者の残存能力に応じた生活を楽しめる基盤を作り、より良い暮らしの実現に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である、「同業者との交流」はスタッフ交流会を開催し職員間での研修に取り組んでいる。又、「重度化や終末期に向けた方針の共有」も契約時に指針を説明し家族の同意を得ており、管理者、看護師は研修を受け、協力医との連携も図り、体制を整備し改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は、評価の狙いや活用方法について理解し、自己評価を職員一人ひとりが実施した後、ミーティングで話し合い管理者がまとめている。自己・外部評価の一連の過程を通じて質の確保に活かし、ケアサービスの向上に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、事業所の現状や利用者の状況を報告すると共に町内会活動を伺い、行事の要望や意見の交換を行ったり、自己・外部評価の結果及び改善の取組みについても報告し、運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とのコミュニケーションが非常に良く取られており、日常的に率直な意見や要望などが話し合える信頼関係が築かれている。今後も家族からの意向の聴取に努め、運営に活かす姿勢を保持している。事業所内部・外部の苦情申し立て機関も明示されている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営者、ホーム長が長年住みなれた地域での開設であり、地元の人々との交流は深く、町内会の七夕や盆踊りなどの夏祭りや敬老会などの行事に利用者と共に積極的に参加したり、各種ボランティアも受け入れ、地域の人々との自然なお付き合いが出来ている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に職員全員で話し合い策定された「自分らしく生き生きと、共に暮らす」を理念に掲げ、地域密着型サービス事業所としてすでに地域に根ざした運営を展開しているが、改めて理念には盛り込んでいない。	○	すでに地域密着型サービスの本質を理解し、その関係作りに取り組んでいるので、現理念を基盤にしつつ、地域住民との交流を重視した方針や目標を具現化した内容を盛り込み、運営の拠り所となる理念の策定を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、サービス提供場面で理念が反映されているか、毎朝の申し送りやミーティング時などで、常に話し合いの機会を持ち意識づけ、理念の具現化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者、ホーム長が長年住みなれた地域での開設であり、地元の人々との交流は深く、町内会の七夕や盆踊りなどの夏祭りや敬老会などの行事に利用者と共に積極的に参加したり、各種ボランティアも受け入れ、地域の人々との自然なお付き合いが出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長、職員は、評価の狙いや活用方法について理解し、自己評価を職員一人ひとりが実施した後、ミーティングで話し合い管理者がまとめている。自己・外部評価の一連の過程を通じて質の確保に活かし、ケアサービスの向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、事業所の現状や利用者の状況を報告すると共に町内会活動を伺い、行事の要望や意見の交換を行ったり、自己・外部評価の結果及び改善の取り組みについても報告し、運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長はキャラバンメイトとして認知症サポーター講座に参加している。石狩市の福祉の窓口である「りんくる」には事業所の実情やケアサービスの実情について頻繁に相談し、双方向的な協力や連携を通し協働体制が確保されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「ひなた通信」を発行し、利用者の暮らしぶりや日常の様子、事業所の行事案内などに加え、職員の異動等についても報告している。金銭出納状況も毎月報告し、承認を得ている。更に状態変化時など必要に応じて個々に電話・メール・手紙できめ細やかな報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションが非常に良く取られており、日常的に率直な意見や要望などが話し合える信頼関係が築かれている。今後も家族からの意向の聴取に努め、運営に活かす姿勢を保持している。事業所内部・外部の苦情申し立て機関も明示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年3月よりデイサービスが開設され、多少の職員の入れ替わりはあったが、運営者は働きやすい環境を作り、職員の離職を抑える方策に努め、馴染みの職員が継続的に支える体制に取り組み、利用者のダメージ緩和を図っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員との年に2回の個人面談を設置し、自己課題を作成し職員の育成の方針を具体化している。外部研修は計画性を持って、職員個々に応じた段階的な受講を推進し、スキルアップに努めている。研修後は報告書を作成し、全職員で内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は、グループホーム管理者会議やキャラバンメイトの活動を通じて交流を図り、ネットワーク作りを行ない、他事業所と協働しながら、「スタッフ交流会」が開催され、職員間レベルでの交流や情報交換の機会を持ち、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設当初からの利用者が殆んどで、当時は入居決定・サービスのいきなり開始のケースが多く、利用開始後から徐々に馴染みの関係を作っていたが、現在はデイサービス等を利用して頂きながら事業所見学を繰り返し行ない、職員・他利用者・サービス内容などと馴染みの関係作りを通して、納得して入居できる支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日々の関わりの中で、こだわりや苦しみ、喜び、楽しみなどの利用者の思いを共感し理解をして、お互いを分かち合える信頼関係が築かれている。利用者から、生活の技や文化等を教えて頂きながら、支え合う関係性が窺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、ふれあいの機会を多く持ち、コミュニケーションを図り、個々の思いや希望の把握に努めている。又、生活暦や家族からの情報に加え、利用者にアンケートを実施し、本人本位の支援を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者担当制をとっている。アセスメントシートを活用し、利用者一人ひとりの状態を把握し、モニタリングを行ない、月1回のカンファレンスで担当職員が中心となり職員間で検討し、本人、家族の意向を考慮した上で、介護支援専門員が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間に、カンファレンスで利用者の担当職員が中心となり介護計画のケア内容の評価が行なわれ、職員間で協議し、計画のズレや急変時には状況に合わせて見直されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの取り組みも含め、買い物、通院、美容室、ドライブなどの送迎支援に対応している。又、遠方の家族が訪問された場合の長期宿泊にも、柔軟な支援に努め、更に看護職員も常勤し、健康管理にも努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、納得した医療機関での受診が出来るよう支援している。協力医療機関とは、月2回の訪問診療の他、緊急時には24時間対応の体制が整っている。看護職員による健康チェックも行なわれ、利用者の健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての重度化、終末期の指針を入居契約時に家族に説明し、同意を得ている。事業所でのターミナルケアの経験は無いが、将来的に重度化・終末期の支援に向け、ホーム長、看護師は研修を受け、協力医との連携を密に図り、利用者、家族がより安心できる体制への取り組みが成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳が保たれるように、親しみはあるが礼節を保ったさりげない対応をし、プライバシーを損なうような対応は見受けられない。個人情報の保管にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の基本的な流れはあるが、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して、散歩、体操、レクリエーション等希望に沿って、本人のペースを大切に支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者の力量や得意分野に応じて役割を分担し職員と共に行なっている。美味しい物を楽しく食べる工夫として、利用者の希望をメニューに取り入れたり、食後に管理者手作りのケーキでコーヒーを楽しむ等、職員と共に和やかに食卓を囲む配慮がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じ、毎日の入浴が可能である。出来る限り一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴支援している。入浴を拒まれる利用者には、言葉掛けや対応を工夫し取り組んでいる。清拭や足浴等も行ない個別に合った対応を行なっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野や興味のある事、出来る事などを見極め、手芸、読書、マッサージの継続など、励ましながら生き甲斐が持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考え、日常的な散歩や買い物から、地域交流会への参加や公共の乗り物を利用した外出まで、一人ひとりの希望に沿えるように出来るだけ個別的支援にも力を注ぎ、戸外で楽しめる機会を作り工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長始め全職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。夜間は防犯上、施錠しているが、日中は開放している。安全性に配慮しながら利用者の自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に年1度、昼間の想定で火災訓練を行ない、月に1度利用者と共に避難誘導訓練を行なっている。石狩市の防災マップに事業所が記載されているが、避難訓練に地域住民の参加までには至っていない。	○	火災訓練は、昼・夜間を想定して実践的訓練の取り組みを期待する。又、運営推進会議などで、火災時における地域住民への呼びかけ、協力体制を築くための話し合いを行ない、連携が図れる取り組みを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、1日の水分量や食事量を記録し把握している。献立は利用者の希望や好みを取り入れながら、栄養バランスを考え、彩りや盛り付けに配慮され造られている。見た目にも美味しく食事が楽しめるように努めている。	○	開設時より1度も栄養士によるチェックを受けていないので、献立に偏りがある訳ではないが、専門的観点から栄養士によるアドバイスを受ける機会を確保し、摂取カロリーや栄養バランスの把握に努める取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者の自宅を改造した建物で、居間のペチカは暖かで、手作りの壁飾りや置物は季節感・生活感を醸し出し、家庭的空間になっている。ディサービスを始める当り、居間のテーブルを換え、テレビも壁面型に換えて、利用者がゆったりと居心地良く暮らせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や家族の協力のもと、個々に応じた環境を整えている。馴染みの家具や、仏壇などが持ち込まれ、壁には思い出の写真等が飾られて、生活用品が利便良く収納される等、居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※  は、重点項目。